

10月中旬までは根室～えりもまで広範囲に、10月下旬には釧路以西～えりもまで高濃度のクロロフィルa

JAXAが公開している衛星データ（GCOM-C、JASMESプロダクト）を元に植物プランクトン量の目安となるクロロフィルa濃度の分布を示しました。その結果、10月上旬～中旬には根室～えりも沿岸の広範囲で高濃度のクロロフィルaが確認されましたが、10月下旬には釧路以西～えりも沿岸までの範囲へと変化していました。10月のモニタリングにおいても根室～浦河にかけての広範囲で *Karenia selliformis*（カレニア・セリフォルミス）の出現が確認され、1000 cells/mlを越える高密度での出現も複数地点で確認されたことから、この高濃度のクロロフィルaは赤潮水塊の可能性が高いと考えられます。

また1000 m以深の沖合域でも高濃度のクロロフィルaが確認されましたが、調査船調査の結果、カレニア・セリフォルミスの出現が確認されたため、沖合域の広範囲まで広がっていたと考えられます。詳細は【臨時】道東太平洋赤潮プランクトン情報（2021/10/18発行）を参照して下さい。

現在緊急対応として行っている赤潮モニタリングに加え、引き続き衛星画像や調査船調査により状況を把握し、随時情報提供する予定です。

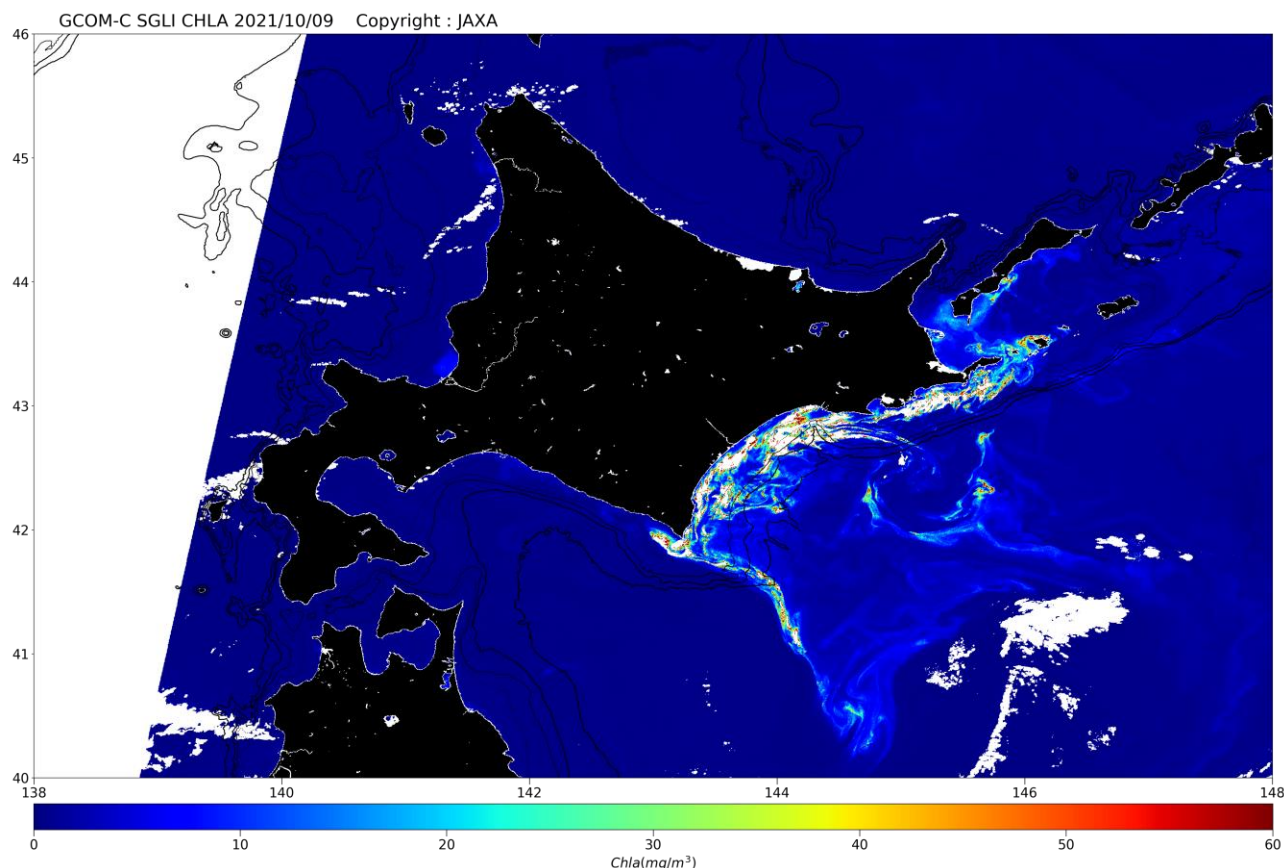


図1 2021年10月9日の表面クロロフィルa濃度（極端に高い領域を抽出するため0～60 mg/m³までの実数スケールに調整して作図）

等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m

※注意事項

- 人工衛星の観測画像より推定されたクロロフィルa濃度は誤差を含むことがあり、表面のみのデータであるため、あくまでも参考値です。
- 高濃度のクロロフィルa領域が全て赤潮とは限りません。増殖した珪藻類などの植物プランクトンや、河川水由来の溶存有機物や懸濁物の影響で高濃度領域を形成することもあります。

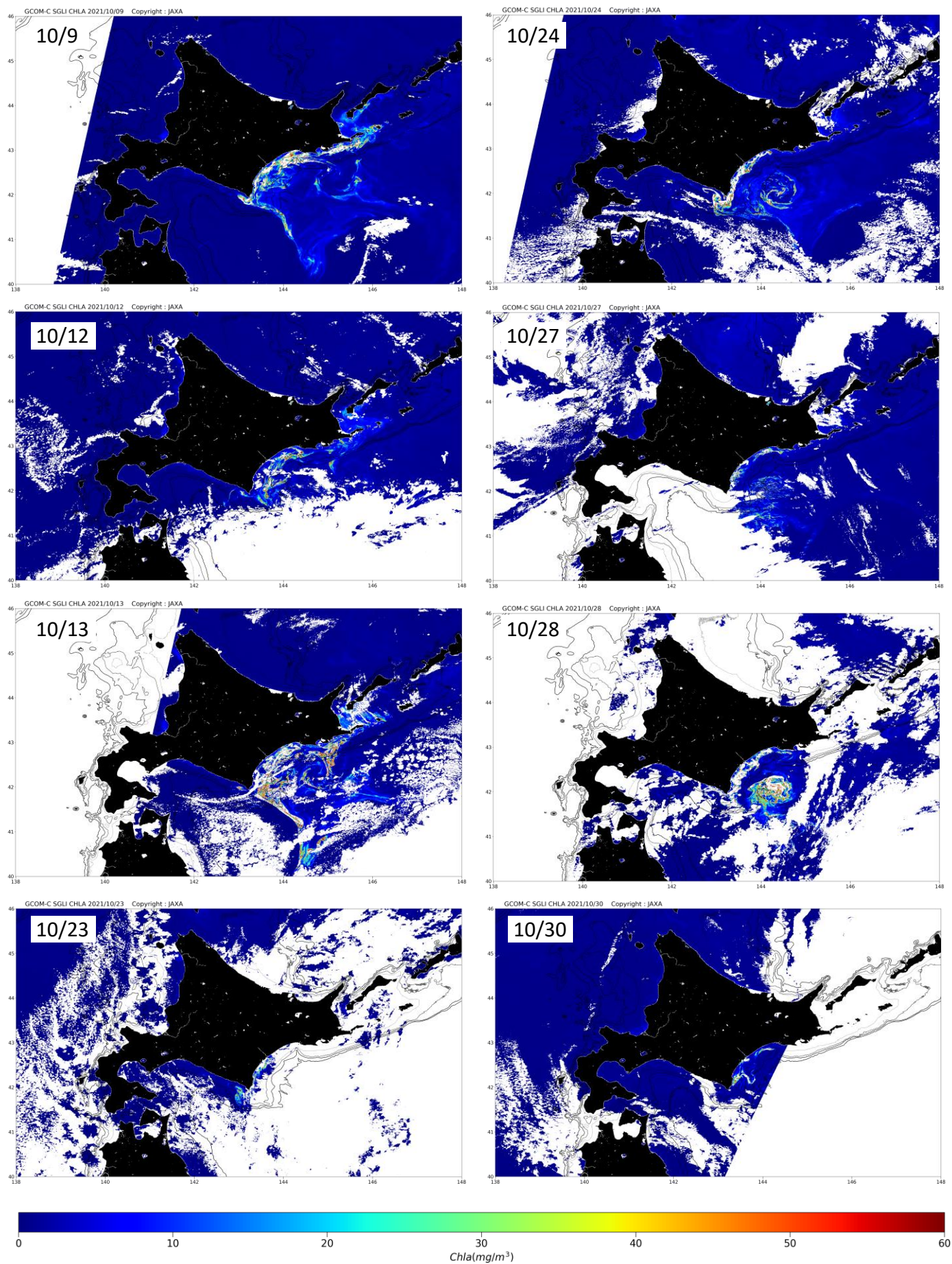
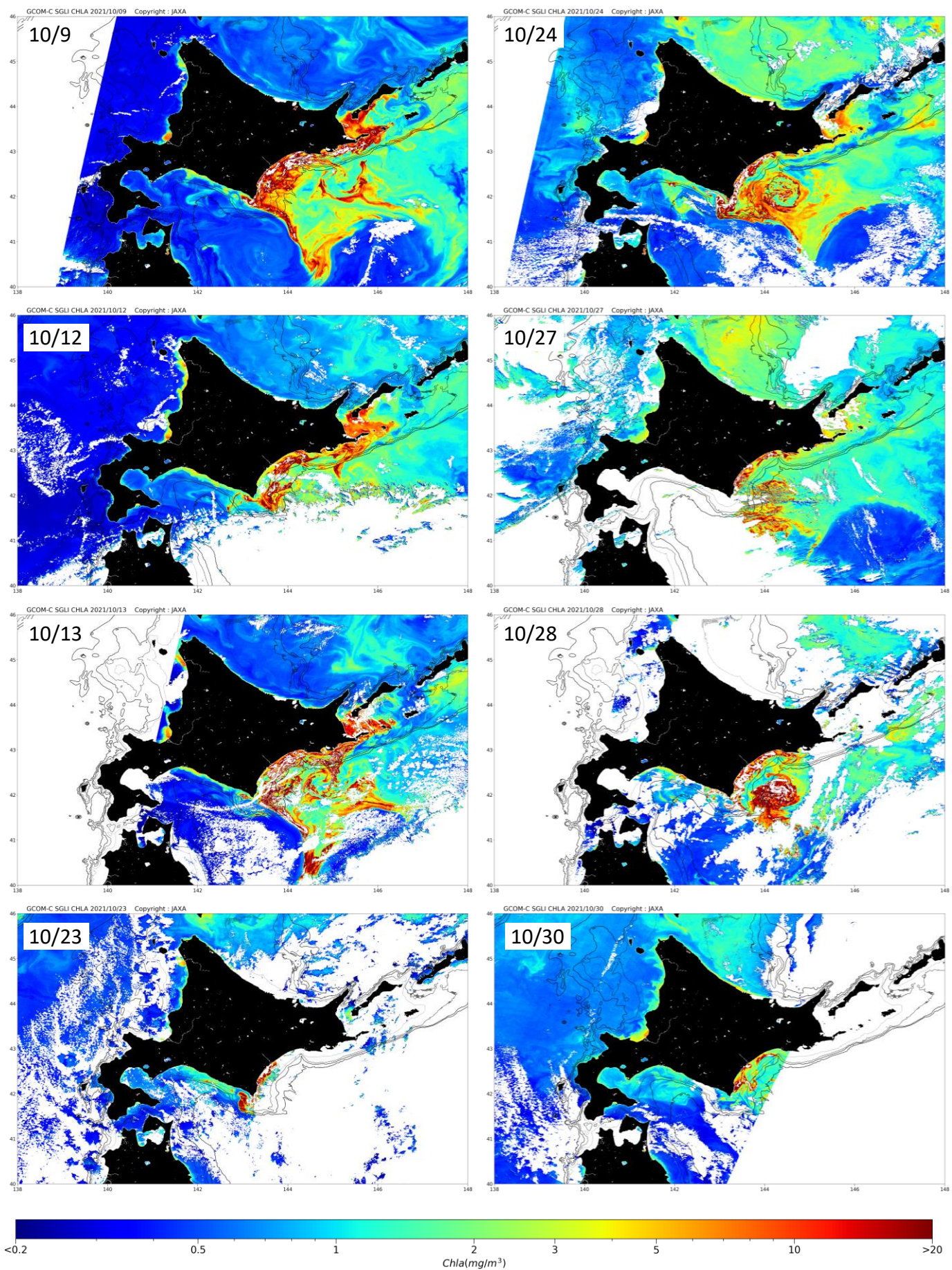
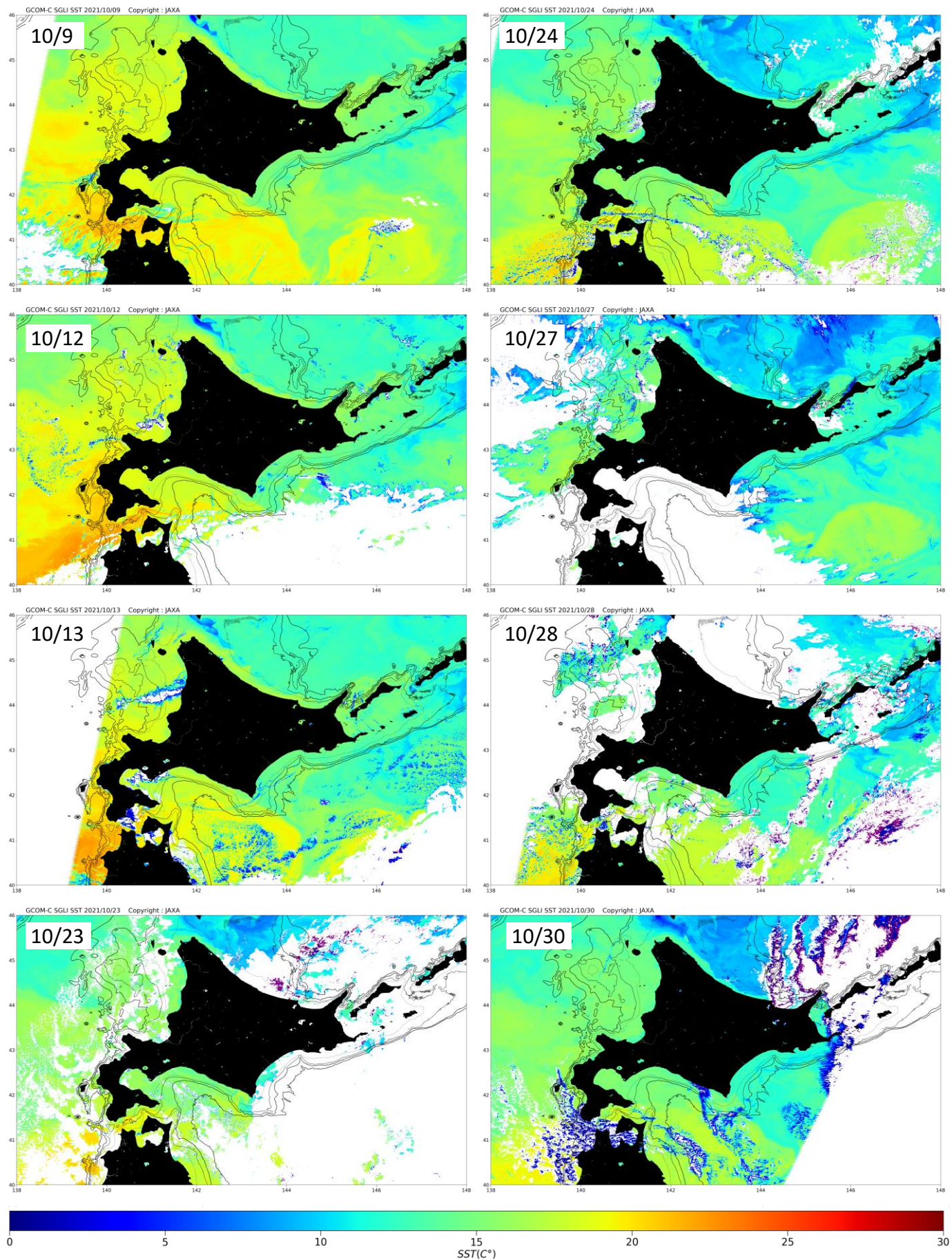


図2 2021年10月の表面クロロフィル a 濃度（極端に高い領域を抽出するため0~60 mg/m^3 までの実数スケールに調整して作図）
等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m



参考図1 0.2~20 mg/m^3 までの対数スケールで作図した2021年10月のクロロフィル*a*濃度の衛星画像



参考図2 2021年10月の表面水温の衛星画像